

トンボを 観察しよう



トンボは、人間のそばで暮らす身近な生き物で、世界中で6,000種近く、日本でも200種ほど存在します。トンボは水辺で産卵します。卵から孵化した幼虫（ヤゴ）は水中で暮らし、水辺で羽化して成虫になります。

トンボは飛ぶのがとても上手です。飛行速度は40~60km/時といわれますが、瞬間的には約80km/時にもなるそうです。トンボの羽は1枚ずつ別の筋肉で動かしているのので、宙返り、急上昇、急降下、急旋回など、さまざまな飛び方ができます。例えばウスバキトンボは羽ばたかずに滑空するのが得意で、ナツアカネは雄と雌がつながって飛びます。また、トンボの羽の動きを研究することで、弱い風でも発電できる風力発電装置の開発も行われています。

住環境コーディネーター
引地春美

子ども歳時記



中秋の名月

9月の満月は「中秋の名月」といいます。日本では平安時代の頃から、団子や里芋などを供え、ススキ、ハギ、キキョウ、オミナエシなどを飾り、月光を浴びながら真ん丸な月を鑑賞して楽しんでいます。

満月の表面には、濃淡の模様が見えます。これは岩石の色の違いですが、日本では餅をつくウサギ、北アメリカではワニ、アラビアでは吠えるライオン、南アメリカではロバなど、地域によっていろいろな見立て方があります。

月が満ち欠けするのは、月が地球の周りを約1ヶ月かけて一巡する衛星だからです。太陽に照らされて明るく光る面と、影になる暗い面の割合が変化するので、細い三日月や、半月や、満月になったりして見えるのです。

子育て親育ちエッセンス

子育てサークル「やんちゃんこ」
代表 濱田 英世

最近、地震や豪雨などで、多くの尊い命が亡くなりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。また、被災された皆様には、一日も早く復旧して日常生活に戻れますことを、心よりお祈りいたします。

尼崎でも大きく揺れた大阪北部地震では、阪神淡路大震災のときのことを瞬時に思い出しました。当時は最初の揺れで目覚め、次に左右にとても大きく揺れた恐怖を、今でもはっきりと覚えています。それがトラウマとなっていたので、今回もどのくらいで揺れが止むのかと、怖くてしかたありませんでした。

西日本豪雨では、どういうわけか尼崎市だけ警報がすぐに出なかったのが、あの雨の中、子どもたちは幼稚園や小学校に登園・登校しました。そして、警報に変わった途端にお迎えや集団下校といった対応が取られ、また大雨の中を帰ることになりました。

「災害は忘れた頃にやってくる」とは、まさしく今回のようなことなのだと思います。防災・減災について少しいい加減な心構えになっていたことに、大反省の私でした。

それと同時に、何よりも普段の何気ない日々が実はどれだけ大切なのかということに、改めて気付かされた気がしました。

子どもの育児に疲れる日もあるでしょう。どうしてこんなにイライラするのか、どうしてこの子は言うことを聞かないのかと、悩む日もあるでしょう。でも、そのようなことに毎日向き合っている、この瞬間が本当はとても大切な時間なのだ、ということに気付かなければならないと思ったのです。子育てに悩んでいるという、そのこと自体が、とても愛情一杯に接しているがための葛藤なのですよ。

その何気なく過ごしている日々の中で、大切にしていかなければならないことは、子ども一人一人を認めてあげることではないでしょうか。どうしても大人は、「できる」ことを子どもに求めてしまいます。期待をすることは、間違ったことではありません。期待に応えようと頑張る力は、子どもを成長させるはずで、ところが結果、失敗や足りなかった力を責めたり「期待外れだった」と否定したりすると、やる気を持たせるところか、自尊心を傷つけるだけになってしまいます。

子どもを認めるということは、その子どものよいところも悪いところも、全て認めるということです。できることがあること、できないことがあること、全部がその子どもだからです。

詩人の相田みつを氏の言葉に「欠点まるがかえで信ずるそれがほんとうの信」という作品があります。「その欠点が明らかであっても、親として唯一の理解者であるべきです。親が見放し、誰も信じてくれる人がいない状態は、子どもにとって生きる意味を失い、自暴自棄へと導くでしょう」とあります。

完璧な人間なんていません。大人が理想とする100点満点を、子どもに背負わせてはいけません。それよりも、その子どもの頑張りを、できるようになった力を、しっかりと認めて褒めてあげましょう。そうすれば、力がもっと発揮されること、間違いありません。

どうかハラハラ・ドキドキ・イライラの時間に感謝を・・・
そして、やんちゃな
子どもたちの未来を
応援していきましょう。

